

「報恩講」によせて

今年（平成12年）初めて、新本堂において「報恩講」をつとめます。

この行事は、お念仏のみ教えを私たちにお示しくくださった宗祖親鸞聖人のご恩に感謝する浄土真宗では最も大切な法要であります。

親鸞聖人は弘長2年（1262）11月28日（旧暦）、90歳で、ご往生なされましたが、聖人が生涯を通じて最も戒められたことは、「空過」－むなしく過ぐる－ということだったと思います。

「空過」とは、かけがえのない一日一日を無駄に過ごしてしまう生き方のことを言います。

ところで、私たちが「生きる」とはどういうことをいうのでしょうか。
それは、「いま」「ここ」「私」を生きるということに尽きます。

「むなしく過ぐる」とはこの三つをおろそかにしていく生き方のことであり、その反対にこの三つを大切に生きることが、「むなしく過ぎない」生き方だと言えます。

それを整理しますと、「むなしく過ぎない生き方」とは、

1. 「いま」を大切に生きる
 1. 「ここ」を大切に生きる
 1. 「私」を大切に生きる
- ということになります。

当たり前といえば至極当たり前のことです。
ところが、これが中々実行できないのです。

私たちは、ともすれば「いま」はつまらなくて、いつか良い時が来るように思ったり、「ここ」は面白くなくて、どこかに面白いところがあるように思い、そして「そのうちに、そのうちに」と、時をむなしく過ごしてしまう生き方をしがちです。

それならば、どうしたら「いま」「ここ」「私」を大切に、カ一杯生き抜くことが出来るのでしょうか。

親鸞聖人は、お念仏に出遭えばむなしく過ぎない人生が歩めますとおっしゃっています。

お念仏とは、「我よく汝を護らん」という阿弥陀さまの呼び声だと、親鸞聖人は明らかにして下さいました。

それは、「いつも私がついているよ。うかうかよそ見せず、せっかく頂いた「いま」を「ここ」を「私のいのち」をカ一杯生き抜きなさいよ」と呼んで下さっているのです。

思えば、私たちの人生には、思いがけないことや思い通りにならないことがしばしば起こります。

「何故なんだろうなあ。どうしてなんだろうなあ」と、深い苦悩の中に身を沈め、いつそのことそこから逃げ出したくなるようなこともあります。

そんな時、私を励まし、勇気づけ、支えて下さるもの、それがお念仏なのです。

親鸞聖人は、「本願力に遭いぬれば むなしく過ぐる人ぞなき・・・」と高らかに詠われたように、お念仏に出遭うことによって、空過しない人生一勝過の人生一を歩んでいかれました。

私たちも、聖人のみ跡を慕い、空過しない人生を歩んでいきたいと思えます。

平成12年12月 「光明寺だより13号」より